

(9) ぶつぶつがある・発疹（ほっしん）

発疹（ほっしん）とは、主に皮膚にできたぶつぶつを指します。色も通常の皮膚の色や赤いもの、青や紫のものなどがあります。

発疹の種類としては紅斑（こうはん）（赤いが盛り上がっていないもの、押さえると赤みが消えます）、紫斑（しはん）（青色や紫色、時には赤いが押さえても青みが消えません）、膨疹（ぼうしん）（赤や白色で盛り上がっているもの）、水疱（すいほう）（水のたまったようなもの）、膿疹（のうしん）（膿のたまったもの）などがあります。

子供は、よく皮膚に発疹ができますし、子供の病気には発疹の出るものが多くあります。その中には、単純に皮膚だけの病気もありますし、感染するものしないもの、また命に関わるような重大な病気のサインのこともあります。保護者の方が、完全にそれらを見分けるのは難しいので、一度は小児科を受診しましょう。

医療機関救急受診のポイント

（救急外来を受診しましょう）

- ▶ 薬を飲んだ後や初めて食物を食べた後に発疹が出た
- ▶ 激しい咳やゼーゼーが出てきた、声が嘎（か）れてきた
- ▶ 顔や唇が腫れてきた、盛り上がったぶつぶつで痒（かゆ）みが強い
- ▶ 高熱があり、ぐったりしている、または非常に機嫌が悪い
- ▶ 短時間で全身に広がった
- ▶ 紫斑（しはん）が足やおしりにでている、関節を痛がったり鼻血が出ている



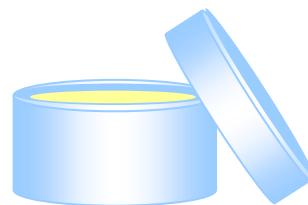
家庭での対処方法のポイント（Q & A）

Q 1 かゆがる時はどうすれば良いですか？

発疹の範囲が狭ければ、冷たすぎない水やタオルで冷やしてもかまいません。それで、かゆみや発疹がひいてくれば様子を見て良い場合がほとんどです。ただし、体温が下がってしまいますから全身を冷やすなど広い範囲を冷やすのはいけません。

Q 2 何か手持ちの軟膏やクリームを塗っても良いですか？

一般的には、発疹の診断がついていない時は、お勧めできません。その軟膏やクリームで発疹が悪化する場合があります。ただし、蕁麻疹（じんましん）のように以前に同じような発疹があり、その時に処方された軟膏などは使用してもかまわない場合があります。



Q 3 お風呂は入っても良いですか？

発疹が出た日は控えてください。できれば、受診するまでは控えてください。

Q 4 紅斑と紫斑は区別できますか？

発疹部分を押さえてみます。押さえたところの赤みなどが消えれば、紅斑(こうはん)です。押さえたところの赤みや青みが消えなければ紫斑(しはん)の可能性が高いと思われます。紫斑は出血しやすくなっている、血が止まりにくくなっていることのサインですから、血液疾患が疑われ紫斑と判断したら早い目に医療機関を受診しましょう。

この症状によくみられる代表的な病気は？

▶ 紅斑：発熱が無い；湿疹、薬疹

発熱が有る；麻疹(ましん)(はしか)、風疹、溶連菌感染症(ようれんきんかんせんしょう)、川崎病、伝染性紅斑(でんせんせいこうはん)(りんご病)、薬疹
解 熱 後；突発性発疹

▶ 紫斑：特発性血小板減少性紫斑病、血管性紫斑病、凝固異常症、白血病 など

▶ 膨疹：じんま疹

▶ 水疱：発熱が無い；伝染性軟属腫(でんせんせいなんぞくしゅ)(みずいぼ)、
带状疱疹(たいじょうほうしん)、単純ヘルペス、
伝染性膿痂疹(でんせんせいのうかしん)(とびひ)

発熱が有る；水痘、带状疱疹、手足口病、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群

▶ 膿疹：伝染性膿痂疹(でんせんせいのうかしん)(とびひ)

▶ 粘膜疹(口の中など)：口内炎、ヘルペス歯肉炎、溶連菌感染症(ようれんきんかんせんしょう)